

ICANNにおけるDNS Abuse議論

前村 昌紀 (まえむらあきのり)

日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

インターネット推進部 maem@nic.ad.jp

ICANN69における DNS Abuse関連セッション

- 10/14 ALAC – At-Large Policy Session: The At-Large Community and DNS Abuse: An Individual User Education Campaign
- 10/15 GNSO – RySG DAAR WG
- 10/20 Plenary – DNS Abuse
- 10/21 WHOIS Changes Under GDPR: Impact to end users & public safety
- その他セッションの中での言及多数

各ステークホルダーのポジション、
活動・議論の状況に関する認識

ALAC

- 強い関心で議論を推進
 - At-Large and DNS Abuse
<https://atlarge.icann.org/policy/at-large-and-dns-abuse-en>
- CCTRTのDNS Abuse関連勧告を支持

GAC

- 公共安全作業部会(PSWG)における、消費者保護、コンテンツ関連問題に関する関心
 - <https://gac.icann.org/working-group/gac-public-safety-working-group-pswg>
- CCT-RTのDNS Abuse関連勧告を支持
- RDSにおける法執行機関の登録データへのアクセスに懸念

GNSO CSG（商用利害関係者グループ）

- ICANNコンプライアンス部門による対策強化への期待
- 商標・著作権問題をDNS Abuse議論に含めるべき
- RDSにおける法執行機関の登録データへのアクセスに懸念

GNSO CPH (契約者会議)

- 既に関与している契約者の対応は十分だが、関与していない契約者への働きかけが重要
- 自発的なDNS Abuseフレームワークのベストプラクティスを支持
 - <http://dnsabuseframework.org/>
- ICANNの責務であるDNSセキュリティ脅威の範疇を超えた要請やコミュニティ活動に懸念

SSAC

- DNSセキュリティに関する調査研究を随時進行中
- 調査研究目的のRDS登録データへのアクセスに懸念

CCT-RT最終報告書における DNS Abuse関連勧告

CCT-RT最終報告書

<https://www.icann.org/en/system/files/files/cct-final-08sep18-en.pdf>

- 2018年9月に公表。35の勧告を含む
- 理事会は2019年3月に以下を決議
 - 6勧告を受諾
 - 14勧告をコミュニティに対して検討依頼
 - 17勧告をペンディングとして継続検討
 - 2勧告が部分的に検討依頼と継続検討双方に属する
- 理事会は2020年10月22日の決議で、ペンディングの17勧告のうち11を受諾
- 残ペンディング勧告：2,3,4,5, 14,15

CCT-RT最終報告書における DNS Abuse関連勧告

<https://www.icann.org/en/system/files/files/cct-final-08sep18-en.pdf>

- 14：積極的な不正利用対策を組み入れられるインセンティブをレジストリ契約に組み込む
- 15：特定のレジストリ・レジストラ事業者の系統だった不正利用を防ぐ方策の実施。
(例としてDNS Abuse DRP)
 - 2020年10月22日決議でもペンディングのまま：
DNS Abuseの定義の明確化が必要と判断
- 16：DNS Abuse対策に資する客観データの収集と提供
 - 2020年10月22日決議で受諾。DAARなどで対応中

レジストリ・レジストラ契約上の規定

レジストリ契約

<https://www.icann.org/resources/pages/registries/registries-agreements-en>

- 仕様11.3(a)
レジストラが登録者との契約の際に、不法・不正利用を禁じ利用停止を含む罰則を盛り込むよう、レジストリ・レジストラ契約に規定する
- 仕様11.3(b)
登録されているドメイン名に対して、セキュリティ脅威がないか定期的な技術的分析を行い、統計情報を記録維持する

レジストラ認定契約

<https://www.icann.org/resources/pages/registrars/registrars-en>

- 3.18 – レジストラの不正利用窓口及び不正利用申告に関する調査の義務
 - 3.18.1：不正利用窓口を置き、不正利用の申告を適正に取り扱う
 - 3.18.2：法執行機関、消費者保護団体などに対する窓口を24時間365日設ける
 - 3.18.3：不正利用申告の受付以降の処理プロセスを明快に示してWebで公開する。申告と回答の履歴を2年間以上保持する

客観的技術情報の提供

CTOオフィスによる計測・情報分析・公開

- DAAR – Domain Abuse Activity Reporting
<https://www.icann.org/octo-ssr/daar>
 - 外部レピュテーションデータと照合し、登録ドメイン名における不正利用の存在を統計的に分析し、月報として公開
 - ITHI (Identifier Technologies Health Indicators)の一環としてもデータ公開
 - <https://ithi.research.icann.org/>
- DNSTICR (Domain Name Security Threat Information Collection & Reporting)
 - 文字列ベース検索で高リスク登録を検知、検証

まとめ

まとめ

- DNS Abuseは2020年を通じて各会議体で活発な議論が続く。論調は立場によりさまざま
- 「DNSのセキュリティと安定性の維持」がICANNの責務。一方で「DNS Abuse」として語られる含意は広く、一定していない。
- ICANNの対応（1）：コンプライアンス定義の明確化が必要な一方、監査などの対応を充実させていく
- ICANNの対応（2）：客観情報の提供

ありがとうございました

- ご不明点など、お気軽にお聞かせください
- ICANN理事会に関する情報は、こちらもご覧下さい
 - 理事会Webページ
<https://www.icann.org/resources/pages/board-of-directors>
 - JPNIC ICANN情報ページ
<https://www.nic.ad.jp/ja/icann/>

ICANNにおけるNS Abuse議論

2020/12/3 第59回ICANN報告会

前村 昌紀（まえむらあきのり）

JPNICインターネット推進部